

若宮

若宮は本殿に次ぐ、鶴岡八幡宮で重要な神社です。若宮という言葉は、本宮の主神の子である御子神を祀った神社や主祭神に特別な関わりのある神社を表すもので、ここに祀られた4人の祭神は、武士階級や国家の守護神であり本宮に祀られている八幡神、つまり応神天皇と親族関係があります。いずれも古代日本で神格化されている人物である、応神天皇の皇后仲姫命、その皇子仁徳天皇、仁徳天皇の皇后磐之媛命、そしてその嫡男履中天皇が、その4人の祭神です。

上下両宮の神社の並びは、火災により地上のものが焼失された後に鶴岡八幡宮が再建された1191年からのもので、それ以前は、本殿へと続く大石段の足元、現在の若宮の位置に本宮があるのみでした。

山の中腹であれば、下方にある町から広がる火の手に対する避災になるだろうという防火的な観点が、新たな本殿の位置を決めるさいの要因になりました。本殿と若宮を繋ぐ大石段もその時に築造されました。

現在の若宮の建物は1624年に完成したもので、国の重要文化財に指定されています。本殿と同様、流権現造の一つ屋根の下に本殿、幣殿、拝殿が収まっています。